

年 組 名前:

浅川兄弟の研究 集大成

元山梨英和学院史料室長の深沢美恵子さんが本刊行

「相互理解の姿勢知って」

元山梨英和学院史料室長の深沢美恵子さん(82)＝甲府市愛宕町＝が、日本統治時代の朝鮮半島で緑化や朝鮮古陶磁の研究に努めた北杜市出身の浅川伯教・巧兄弟についてまとめた「韓(カウ)の国に生きた兄弟を韓の国は忘れない 浅川伯教 浅川巧」を刊行した。「私の研究の集大成。2人がいかに生きたかを、今の時代に改めて知ってほしい」と話している。

〈桑原久美子〉

浅川伯教、巧兄弟についての研究を本にまとめた深沢美恵子さん
＝甲府・山梨英和中高



深沢さんは約20年前から、2人の朝鮮行きに影響を与えたといわれる小宮山清について研究。2人が暮らした日本統治時代の韓国の地図や、伯教と妻たか代の最晩年など数百点を収集し、2人の写真など、収集した資料写真と関係者の元を訪ねて聞き取り、2人を受けた友と子孫ら関係者について紹介した成果を一冊にまとめた。

また、2人の根底にはキリスト教信仰があったと指摘。伯教は朝鮮古陶磁研究、巧は林業育成に力を入れ、朝鮮の人と文化で理解し合おうとした姿勢が「現代の韓国・現在の私たちの共感を生み出しているのではないだろうか」とつづけている。

深沢さんは山梨英和中高の社会科教師だった2003年、韓国の女子教育発祥校である梨花女子高校との姉妹校締結に携わったのを機に韓国との文化交流を続けてきた。教え子の自由研究をきっかけに浅川兄弟に着目。浅川巧研究者で津田塾大名誉教授の高崎宗司さんと交流しながら研究を進め、渡韓は約50回に上るといふ。

「戦後80年が過ぎ、日本が韓国を植民地支配していた時代があったことが忘れられつつある。その時代に朝鮮の文化を愛し、朝鮮の人たちに好かれた浅川兄弟の生き方を、今こそ知ってほしい」と話している。「韓の国に」はA4判カラー160ページ。揺籃社刊、2200円。

(2026 年 1 月 23 日付 山梨日日新聞 17 面)

問1 元山梨英和学院史料室長の深沢美恵子さんが、本にまとめた「浅川兄弟」は、どこの出身で、何の研究をした兄弟ですか。

出身地: 研究:

問2 深沢美恵子さんは、研究を進める中で、どのような資料を収集しましたか。

地図:

手紙:

写真:

問3 深沢さんが、「浅川兄弟」について、研究を始めたきっかけを教えてください。

.....

問4 今、あなたが興味をもって調べたいことを、自由に書き出してください。

.....